

現状の整理

- 近年、本町の人口は、微増・横ばいの状況にあるが、白帆台地区の人口増加に依るところが大きく、白帆台地区を除く総人口は減少傾向にある。
- 自然動態については、2007 (H19) 年まで出生者数が死亡者数を上回っていたが、2008 (H20) 年以降はほぼ同数で推移している。
- 社会動態については、2008 (H20) 年まで転出者数が転入者数を上回っていたが、2009 (H21) ~2013 (H25) 年度の定住促進奨励金制度の実施に伴い社会増 (主に白帆台) へと転じ、制度終了後は再び社会減となっている。
- 転入者を年齢別に見ると、「20~24 歳」になるまでの年齢 (男女とも) が多い。
- 転出者を年齢別に見ると、「25~29 歳」になるまでの年齢 (男性「30~34 歳」、女性「25~29 歳」) が多い。
- 本町の第 1 次産業人口割合は全体の約 1% (155 人)、第 2 次産業人口は 27% (3,491 人)、第 3 次産業は 72% (9,255 人) となっており、第 1 次産業は横ばい傾向、第 2 次産業は 1995 (H7) 年をピークに減少傾向、第 3 次産業は増加・横ばい傾向にある。
- 就業者の従業地については、15 歳以上就業者の 67% が町外で就業しており、64% が石川中央都市圏 (金沢市 53%、かほく市 4%、白山市 3%、津幡町 2%、野々市市 1%) で就業している。

課題の整理

- 白帆台の人口増加傾向が止まれば、町全体での人口減少の加速が懸念される。
- 若年世代の転出は将来的な出生数に関係し、実際の転出者数以上に町の人口動態に影響を及ぼすことが懸念される。
- 社会保障・人口問題研究所 (社人研) の人口推計によると、全国に比べ本町における年少人口 (0~14 歳) の減少割合、老年人口 (65 歳以上) の増加割合がそれぞれ大きく、高齢化の急激な進展が懸念される。
- 就業者の約 7 割は町外で就業している状況であり、「就業の場」の確保・創出のため、石川中央都市圏との連携が必要である。

目指すべき人口減少対策の方向性 (基本方針)

**基本方針① 子育て環境の充実による定住促進及び合計特殊出生率の向上を図ります**

子育て環境の充実による若い世代の定住促進及び合計特殊出生率の向上を目指す。

**基本方針② 町民がずっと元気に暮らせる健康寿命の延伸を目指します**

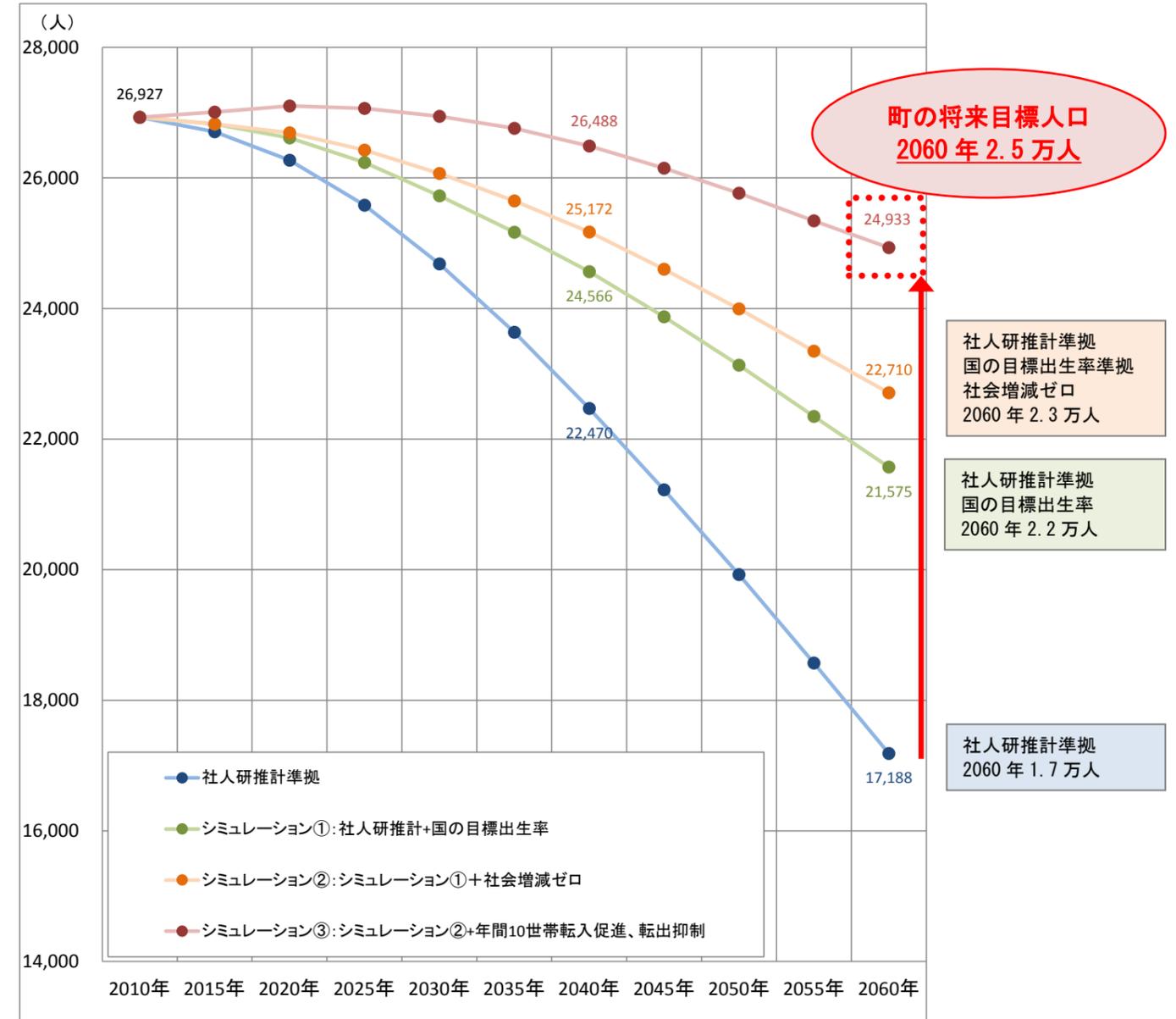
町民の健康寿命の延伸を図り、ずっと元気に安心して暮らせる環境づくりを目指す。

**基本方針③ 安全・安心な暮らしを確保する住みよいまちづくりを進めます**

定住人口を確保するため、安全・安心な住みよいまちづくりを進めるとともに、近隣市町との広域連携の強化を目指す。

将来目標人口の設定 (町の将来展望)

内灘町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策展開により、2060 年には人口約 25,000 人の確保を目指します。



**【社人研推計準拠: 2060 年推計人口 17,188 人】**

2005 年及び 2010 年国勢調査等を基に、生存率・純移動率・子ども女性比・0-4 歳性比の仮定値を設定。

**【シミュレーション①: 2060 年推計人口 21,575 人】**

社人研推計準拠を基に、出生について合計特殊出生率が 2030 年に 1.80、2040 年に 2.07 まで上昇し、以降も維持されると仮定。

**【シミュレーション②: 2060 年推計人口 22,710 人】**

シミュレーション①を基に、転入・転出について 2015 年以降、転入者数及び転出者数が同数となり、社会移動がゼロになると仮定。

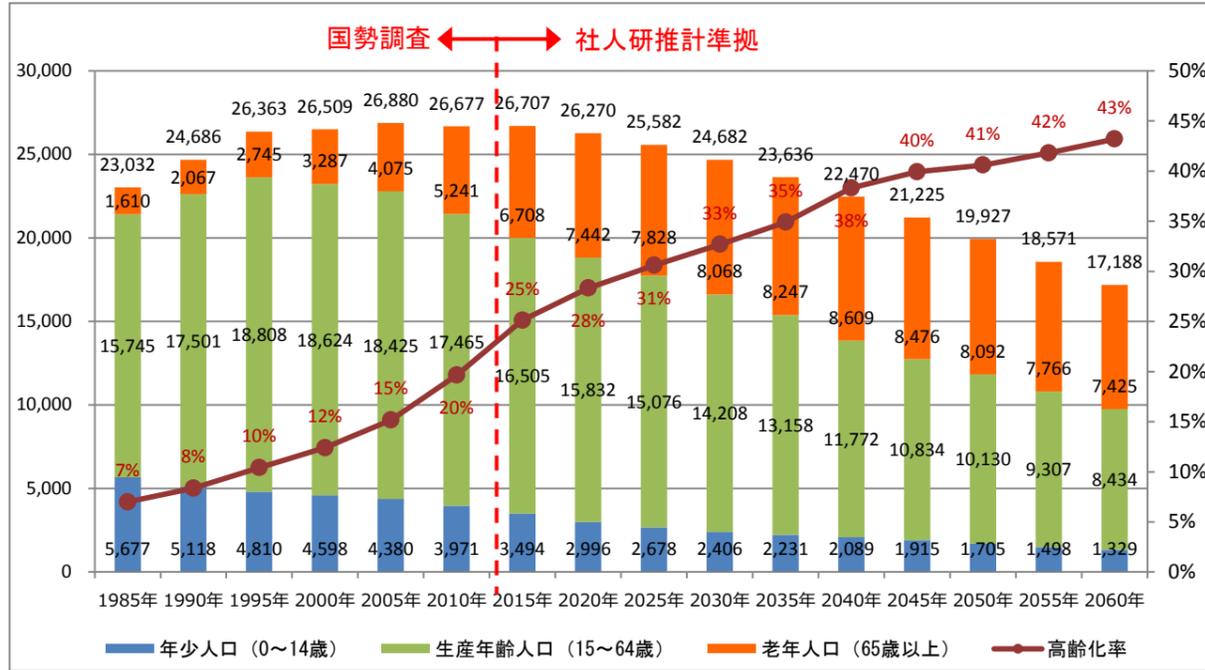
**【シミュレーション③: 2060 年推計人口 24,933 人】**

シミュレーション①を基に、転入・転出について 2010 年以降、転入者数及び転出者数が同数 (社会移動ゼロ) となり、2015 年以降、若年層世帯 (35~39 歳夫婦+0~4 歳の子ども 1 人) を年間 10 世帯転入促進・転出抑制すると仮定。

# 内灘町人口ビジョン 概要 (現状の分析)

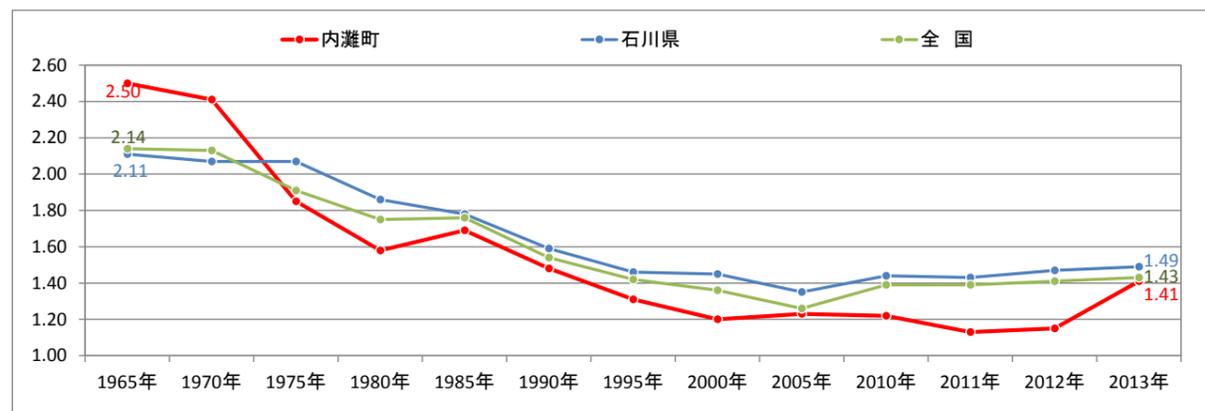
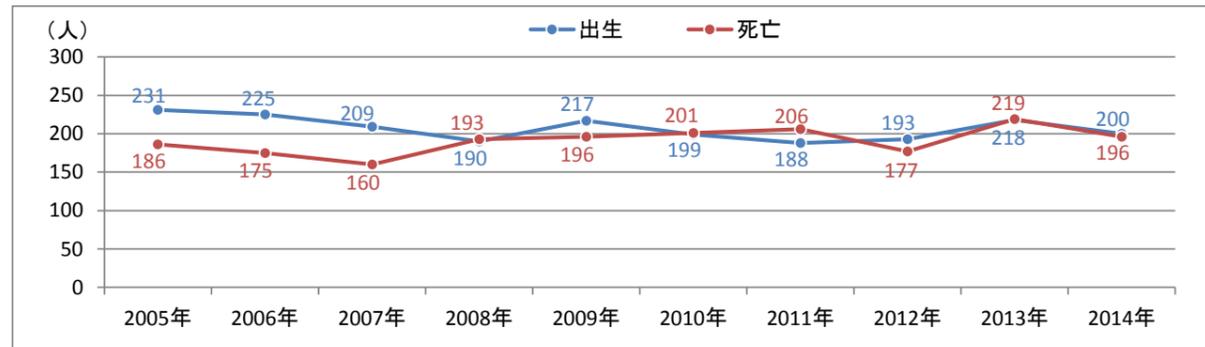
## 人口動態と推計 (国勢調査及び社人研推計準拠)

- 2015年以降は人口減少に転じ、年少人口・生産年齢人口は減少を、高齢化率は上昇を続ける。
- 2040年に老年人口はピークを迎える。



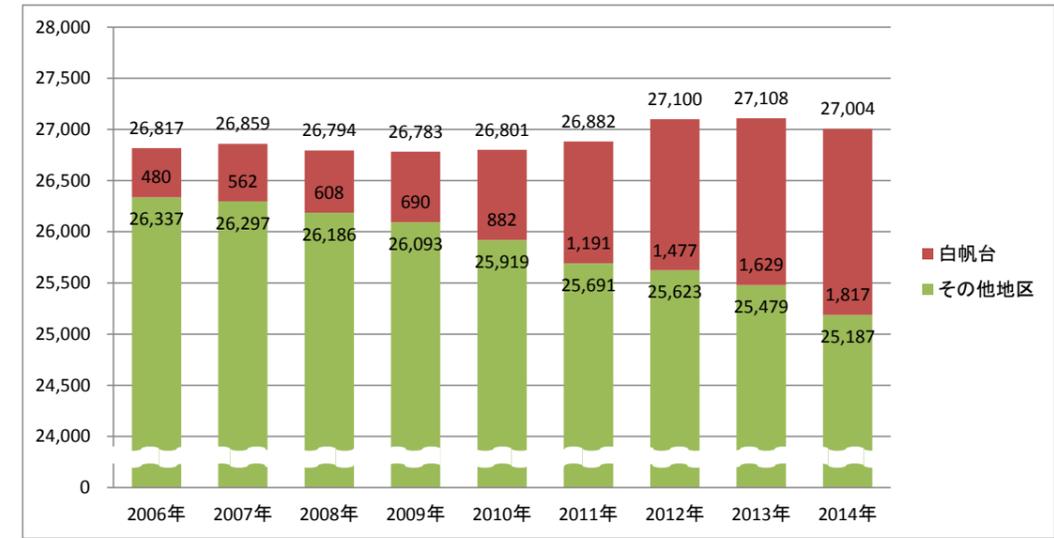
## 自然動態

- 近年は、出生者数と死亡者数はほぼ同数で推移している。
- 合計特殊出生率は、1975年以降、全国・石川県を下回っている。



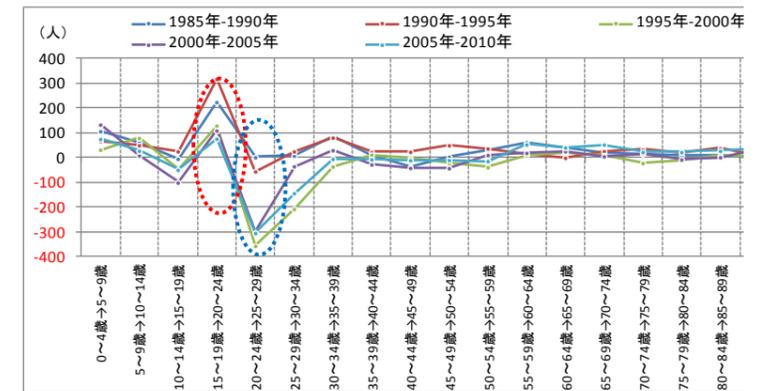
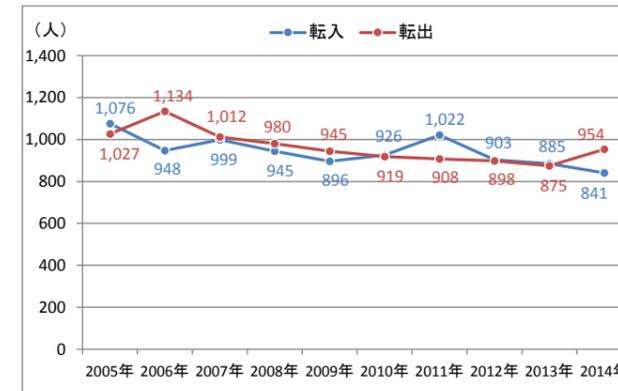
## 近年の人口推移

- 白帆地区の人口は増加し、その他の地区では減少となり、町全体としては、大きな変動となっていない。



## 社会動態

- 若干の転出超過傾向にある。
- 「20~24歳」になるまでの転入が多く、「25~29歳」になるまでの転出が多い。



## 就業者 (15歳以上) の従業地

- 就業者 (15歳以上) の97%は石川中央都市圏内で就業しており、全体の53%は金沢市が従業地となっている。

